

「サンゴの海の生き物たち」

レオ=レオニ さく

サンゴの海には、たくさんのいきものたちがすんでいます。

それらの中には、たがいに、やくに立つようにかかわり合って、くらしているものがあります

どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。海の中をのぞいてみましょう。

大きなイソギンチャクがいますね。細長いたくさんのしょく手をゆらゆらさせています。そのしょく手の間に、きれいなオレンジ色の魚がうかんでいます。クマノミです。

イソギンチャクのしょく手には、どくのはりがあります。イソギンチャクは、これで、小さなどうぶつをつかまえて、食べているのです。クマノミも、さされるとたいへんなことになります。でも、さされることはありません。クマノミの体は、ねばねばしたえきでおおわれています。これが、さされないひみつです。

クマノミを食べる大きな魚は、イソギンチャクをこわがって、近づいてきません。だから、イソギンチャクの中にいれば、クマノミはあんぜんです。

イソギンチャクを食べにくる小さな魚がいます。クマノミは、この魚が近づいてくると、カチカチと音を立てて、おいはらってしまいます。こうして、イソギンチャクとクマノミは、たがいにまもり合っているのです。

サンゴの海には、うつくしい魚がたくさんいます。ホンソメワケベラも、その一つです。明るい青色の体に、頭からしっぽにかけて黒いすじが一本あります。体の長さは十二センチメートルほどです。

この小さい魚が、大きな魚の口の中に入っていくのを見ると、びっくりしてしまいます。でも、食べられることはありません。大きな魚たちは、体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがとって、きれいにそうじしてくれるのを知っているからです。

ホンソメワケベラは、そうじ魚とよばれています。でも、ただ、そうじをしているわけではありません。ホンソメワケベラにとっては、そうじをしてとった虫が、食べ物になるのです。

このようにして、サンゴのうつくしい海では、たくさんの生きものたちが、さまざまにかかわり合っ

てくらしています。